

投資対象先候補で存在感高まるインド！ なるほどナットク、人口動態や経済成長などマクロ面でも魅力がたっぷり！

シャイニング・インド（マクロ関連）～主要株式指数でも組入比率上位に浮上～

- ▶ **世界第2位の人口、増加する「生産年齢人口&中間所得層」で唸りを上げる生産力・消費力**
インドの人口は13億人を超え、中国に次ぐ世界第2位の人口大国となっています。生産活動の中核をなす生産年齢人口（15～64歳）は増加傾向にあります。その結果、経済的豊かさが増すとともに購買意欲も高くなるため、経済が一層活性化することが予想されます。
- ▶ **安定した内政運営、確立された民主主義。独立以来軍事クーデターなし**
2014年の総選挙でインド人民党が単独過半数を超えて大勝し、ナレンドラ・モディ政権が発足しました。インドは18歳以上の有権者数の多さから、「世界最大の民主主義国家」といわれています。モディ政権は、インド国民による大きな支持を背景に現在2期目を迎えており、安定した内政運営が期待されています。
- ▶ **人口パワー×モディ首相が取り組む諸政策＝高いGDP成長率の継続期待**
前述のようなマクロ環境を追い風に、経済成長が継続しており今後もさらなる成長が予想されています。インドへの投資も増加しており、代表的な新興国株式指数でもその比率は増加しています。単一国投資においても、長期的に成長する裏付けがあるため、投資しやすいことに加えて、政治的に安定していることも安心材料となっています。

MSCIマーキングインデックス構成国上位推移

2019年4月末時点		2022年4月末時点	
中国	33.0%	中国	30.6%
韓国	12.8%	台湾	15.4%
台湾	11.6%	インド	13.6%
インド	9.1%	韓国	12.5%
ブラジル	7.0%	ブラジル	5.3%
南アフリカ	6.2%	サウジアラビア	4.7%
ロシア	3.8%	南アフリカ	3.7%
メキシコ	2.7%	メキシコ	2.2%
タイ	2.3%	インドネシア	1.9%
インドネシア	2.1%	タイ	1.9%

* MSCIマーキングインデックスでは2022年3月9日の取引終了時にロシアの組入を除外

ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会